

センリョウの挿し木増殖法	
[要約] センリョウの挿し木による増殖では、挿し木部位に結果枝を用い、発根剤としてオキシベロンを粉衣して、赤土の用土に挿し、7月から8月に挿し木した場合で良い発根等を得ることができた。	
農業総合センター鹿島地帯特産指導所	
キーワード	センリョウ, ソウショク, サシキ

1. 背景・ねらい

センリョウの増殖は一般的に種子繁殖によって行われているが、株養成期間が長くかかるため、育種期間の短縮化や、均等で効率的な増殖法の確立を目的として挿し木による増殖法を検討する。

2. 成果の内容

1) 挿し木部位に本葉を2枚付け、それぞれ半分の長さに切り落とし、長さを6cmに調整したものをを用い、たて15cm×よこ10cmの間隔で当所竹す張り「楽屋」及び遮光率85%の遮光ハウス内に挿し木を行い、発根や生育等に関する試験を行った。

挿し木部位では一年生枝、結果枝、果房下位節腋芽を用いて比較を行い、結果枝を用いた場合で発根率、最長根長が優れる結果となった。

挿し木時期では4月から9月にわたり試験を行ったが（一部データ略）、9月挿しでは発根が悪かったが、7月、8月挿しでは発根に関して明確な違いは認められず、8月挿しの結果枝で最も発根は良かった。しかし2年目の生育では7月挿しが結果枝数等でやや優れており、7月に挿し木を行うのが良い結果となった。（表1）

2) 挿し木用土に砂土、赤土、鹿沼土を用いて比較を行った結果、赤土を用いた場合で発根が最も優れ、砂土では逆に発根が悪かった。

発根剤の比較では、オキシベロンを粉衣した場合で発根が最も優れていたが、ルートを粉衣した場合では逆に、無処理より発根が劣るものも見られ、発根促進効果は認められなかった。（表2）

3) 以上の結果から、挿し木増殖を行う場合では挿し木部位には結果枝を用い、発根剤としてオキシベロンを粉衣し、7月に赤土に挿し木を行うのが最も良い結果を得られ、優良系統等の均一的増殖、維持に有効な手法のひとつとなることが明らかになった。

3. 成果の活用面・留意点

1) 鹿島南部地帯の気象条件に適する。

2) 挿し木部位の基部に節が有るものを用いれば、発根率や発根状態等がさらに向上する。（データ略）

4. 具体的データ

表1 挿し木部位と時期の違いが発芽に及ぼす影響（平成10年及び11年，赤土挿し）

挿し木時期	挿し木部位	初 年 目				2 年 目	
		発根個体数 (本)	未発根個体数(枯死個体) (本)	発根率 (%)	発根個体最長根長 (mm)	草丈 (cm)	シュート数(結果枝) (本)
7月15日	1年生枝	9	11(6)	45	36	12.0	3.2(3)
	結果枝	11	9(6)	55	80	12.9	3.1(3)
8月12日	1年生枝	7	13(9)	35	48	11.0	2.9(0)
	結果枝	14	6(3)	70	67	14.2	2.9(1)
9月16日	1年生枝	6	14(5)	30	26	8.9	2.3(2)
	結果枝	4	16(13)	20	6	5.5	3.0(0)
	果房下位節腋芽	3	17(14)	15	19	5.2	1.7(0)

※ 初年目は処理後3ヶ月後に20本抜き取り調査、2年目は11月9日に10本調査、2年目の結果枝数は10本中の本数、その他は1本当たりの平均

表2 結果枝における用土、発根剤の違いが発根に及ぼす影響（平成9年7月挿し）

用 土	発根剤	発根個体数 (本)	未発根個体数(枯死個体) (本)	発根率 (%)	発根個体平均発根数 (本)
砂土	オキシベロン浸漬 ^{注1)}	13	17(14)	43	3.6
	オキシベロン粉衣	23	7(7)	77	6.2
	ルートン粉衣	9	21(18)	30	2.9
	無 処 理	10	20(9)	33	4.2
赤土	オキシベロン浸漬	29	1(1)	97	6.4
	オキシベロン粉衣	30	0(0)	100	7.5
	ルートン粉衣	27	3(2)	90	4.2
	無 処 理	24	6(2)	80	4.4
鹿沼土	オキシベロン浸漬	26	4(4)	87	5.4
	オキシベロン粉衣	28	2(2)	93	5.1
	ルートン粉衣	14	16(12)	47	3.2
	無 処 理	24	6(4)	80	4.7

注1) 40倍液、3時間浸漬

処理後3ヶ月後に30本抜き取り調査

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

センリョウの増殖技術の開発・平成8～11年・鹿島地帯特産指導所